

第3章 地域別の発展方向

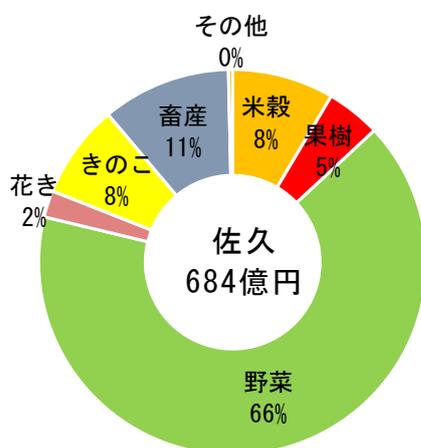
佐久地域の発展方向

小諸市・佐久市・小海町・佐久穂町・川上村・南牧村・南相木村・北相木村・軽井沢町・御代田町・立科町

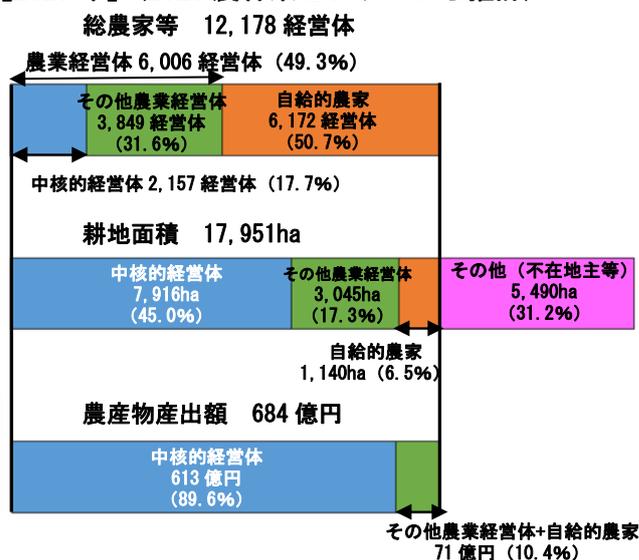
多様な人材で支え合う持続可能な佐久の農業・農村

農業・農村の特徴

千曲川源流の清らかな水と標高 500m～1500m に広がる雄大な自然に恵まれた立地条件を **生**かして、八ヶ岳・浅間山麓地帯では、高原野菜、酪農・肉牛等の畜産、佐久平では良質米、プルーン等の果樹、花き、信州サーモン等水産、川西地区では、品質に定評のあるりんごや肉牛、養豚等多様な農業が営まれています。



【2020年】(2020農林業センサスから推計)



めざす姿

I 皆が憧れ、稼げる佐久の農業

- 地域の話合いにより地域農業の将来像が明確化され、新規参入者や親元就農者が担い手として活躍しています。
- 法人化された大規模経営体に農地が集約され、スマート農業技術の導入により高品質多収産地として、競争力の高い水田農業が展開されています。
- 葉野菜地帯では輪作体系が導入され、適正規模による効率的経営が行われるとともに、計画生産の実施や持続的生産体系の普及により、夏秋期の全国ナンバー1産地が維持されています。
- 化学合成農薬や化学肥料を削減した栽培や有機農業などに取り組む農業者が増えて、取組面積が増加しています。

II しあわせで豊かな暮らしを実現する佐久の農村

- 地域ぐるみの共同取組活動により、中山間地域の農地が維持され、多面的機能の維持や農村

の景観が保全されています。

- 農業用水利施設の防災対策が実施され、農村の安全安心な暮らしが実現しています。

Ⅲ 魅力あふれる佐久の食

- 佐久地域で生産された農畜産物が地元消費者の利用に加え、学校、宿泊施設等へ供給され、農産物直売所が安定的に運営されています。
- 食育に関する理解が進み、若い世代にも関心が広まり、全国有数の長寿地域である佐久の食文化が次世代に継承されています。

施策の展開方向

I 皆が憧れ、稼げる佐久の農業

重点取組1 皆が憧れる経営体の育成と人材の確保

新規就農里親研修制度等を活用しての新規参入や親元就農など、毎年一定数の担い手は確保されていますが、**更**なる確保に努めていきます。就農後の技術指導、早期経営安定のための経営状況の把握など、関係機関と連携した支援を進めます。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
新規就農者数(49歳以下)	28人/年	33人/年
中核的経営体数	2,097経営体	2,150経営体

【具体的な施策展開】

- 担い手を明確にする「地域計画」の策定と実現に向けた支援
- 意欲ある担い手の生産技術、経営能力向上支援
- 市町村、関係団体と連携した新規就農者の確保・育成及び就農後のサポート



【佐久農業青年のつどい】

重点取組2 夏秋期葉洋菜等の全国ナンバー1産地としての持続的発展

佐久地域は、全国屈指の夏秋期の葉洋菜産地として発展してきました。今後は、一層の計画生産や環境負荷の少ない持続的生産体系への転換を進めます。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
堆肥入り化学肥料の施用面積	195ha	300ha
鮮度保持機能の向上を行う施設数	-	3施設

【具体的な施策展開】

- 需要に応じた葉野菜の計画生産と、環境に配慮した資材・技術導入による環境にやさしい農業の推進
- 適正規模による効率的な経営モデルの推進
- 稼ぐ野菜産地を支える鮮度保持施設等の機能向上支援



【堆肥入り化学肥料現地試験】

重点取組 3 佐久の立地と気象を生かした個性が光る産地づくり

佐久地域は、良質米や品質の高い畜産物、果樹、花きの産地として発展してきました。今後、新たな技術の導入等を進め、省力化と安定生産に取り組み、産地の維持発展を進めます。

また、米は需要に応じた生産のため新規需要米等の作付けを推進します。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
新規需要米等の作付け面積	228ha	260ha
ブルーンの栽培面積	71ha	71ha

【具体的な施策展開】

- 水田農業の高単収と高品質の維持に向けた安定生産及びスマート農業技術の導入推進と雑草イネの発生面積抑制
- 生乳の生産性向上や効率的な飼料給与技術の導入による酪農等の生産基盤の強化
- ブルーンの生産量維持と佐久の強みを生かした品種構成による産地展開
- 施設花きの連作障害対策と燃油削減技術の導入による低コスト安定生産



【ラジコン式草刈機実演会】

重点取組 4 環境にやさしい農業の取組面積の拡大

夏でも冷涼な佐久地域では、化学合成農薬・化学肥料を削減した農業への取組が進みつつありますが、地球温暖化防止や脱炭素化のため、有機農業など環境負荷を低減した環境にやさしい農業への一層の取組を推進します。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
化学合成農薬・化学肥料を原則 50%以上削減した栽培や有機農業に取り組む面積	474ha	725ha

【具体的な施策展開】

- 土壌診断に基づく施肥設計や化学肥料を削減した栽培の推進
- 有機農業生産者グループの育成と安定生産の推進
- 農畜産物の安全性確保のためのGAP導入の推進



【GAP研修会】

Ⅱ しあわせで豊かな暮らしを実現する佐久の農村

重点取組 5 農業・農村の多面的機能の維持と災害から暮らしを守る防災対策の実施

農業・農村の有している自然環境の保全、良好な景観の形成など多面的な機能を維持していくため、農地や農業用水路等の適切な管理を支援します。

また、頻発化・激甚化する自然災害による農業水利施設への被害防止のため、農業用ため池の防災対策を計画的に進めます。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	4,444ha	4,602ha
防災重点農業用ため池の地震耐性評価の実施箇所数	18か所	84か所

【具体的な施策展開】

- 多面的機能支払事業等を活用した農地や農業用水路の適切な管理の支援
- 防災重点農業用ため池に係る防災対策の集中的かつ計画的な推進
- 地域ぐるみで取り組む野生鳥獣被害対策への支援



【地域ぐるみの共同活動】

Ⅲ 魅力あふれる佐久の食

重点取組 6 地域食材の魅力を伝える地消地産と食育の推進

県外への出荷が中心となっている佐久地域の農畜産物は、地元食材の魅力発信や、学校や宿泊施設等への供給体制づくり等により、地消地産の一層の推進が必要となっています。

また、佐久地域の食文化を継承していくため、関係機関と連携して食育を推進します。

【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
売上額 1 億円を超える農産物直売所の売上高	23.3 億円	25 億円
新たに地元食材を供給する宿泊施設・飲食店数	-	20 施設

【具体的な施策展開】

- 農産物直売所の店舗運営、品揃え充実、直売所間連携のための研修会等の開催
- 特徴ある農畜産物の宿泊施設等への供給による地消地産の推進
- 関係機関と連携した食育・花育活動の推進



【保育園における食育活動】